

# 東京都職員採用選考

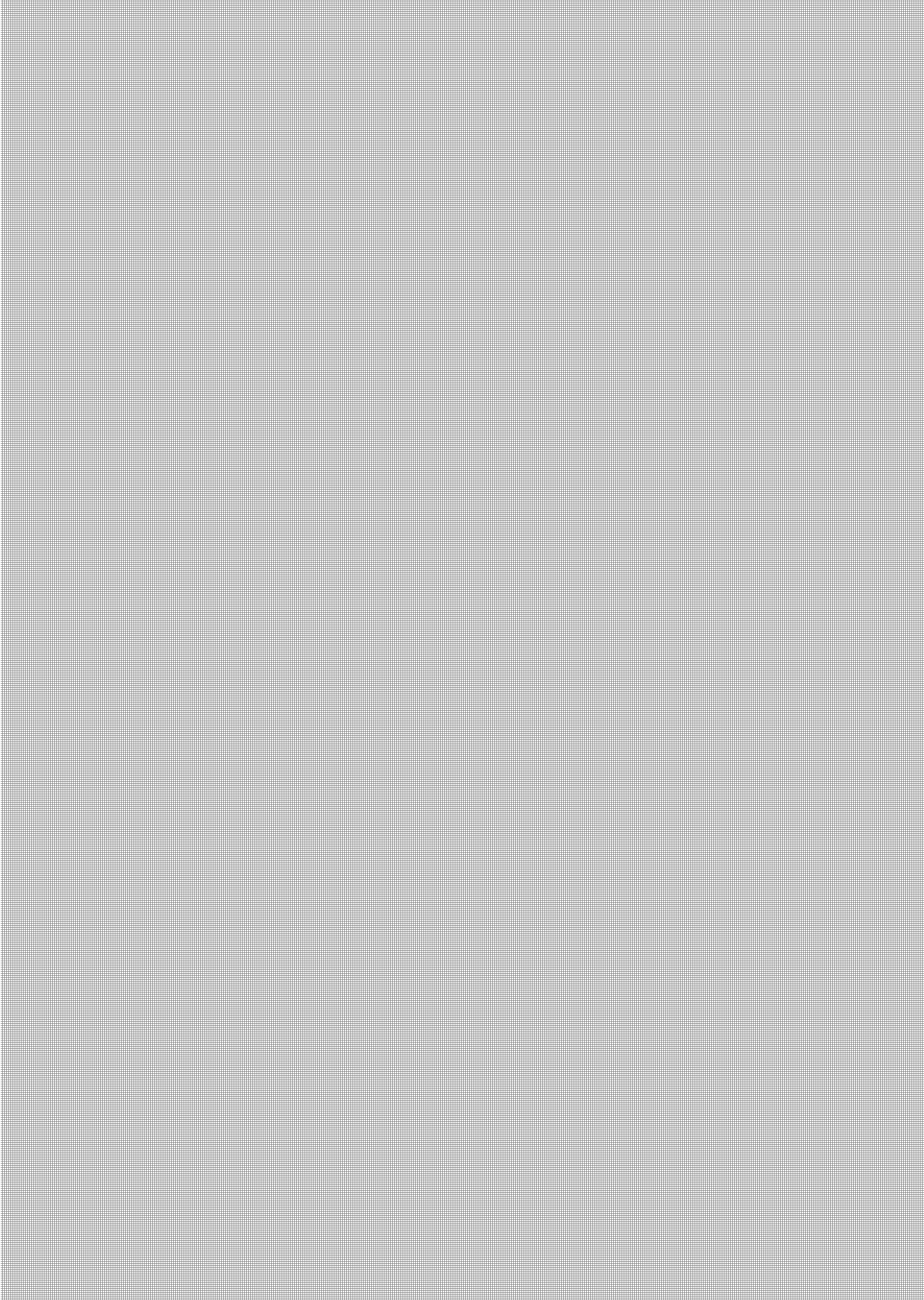
## 【Ⅰ類B・Ⅱ類 福祉技術(言語聴覚士)】

(令和5年10月22日実施)

### 試験問題（専門）

#### 注 意

- 1 問題と答案用紙は別になっています。必ず答案用紙に解答してください。
- 2 問題は全部で**2題**あります。
- 3 解答時間は**1時間30分**です。
- 4 この問題冊子は持ち帰ることができますが、**答案用紙は絶対に持ち帰らない**でください。



1

次の文章の（ ）の中に適切な語句を入れ、文章を完成させなさい。

- 1 Bates らによるコミュニケーション発達段階では、大人の読み取りが中心である「( 1 )段階」、身振り、音声、視線などの非言語的シグナルを使う「( 2 )段階」、有意味語を獲得し意思や思いの表現が明確化する「命題伝達段階」の3段階がある。( 1 )段階は生後( 3 )頃まで、命題伝達段階は生後( 4 )から1歳4か月頃が、その段階にあたる。
- 2 発達性ディスレクシア（読字障害）は、文字ー( 5 )変換（decoding）の問題により、文字をすらすら読む流暢性と誤りなく読む( 6 )性が障害される。二次的に、読んだものを理解する( 7 )にも困難をきたす。
- 3 新版構音検査を構成する下位検査に、構音類似運動検査があるが、その中で[m]音の検査課題は「( 8 )を閉じてそのまま声を出す」、また[k・g]音の検査課題は「( 9 )したままで「ンー」を言う」である。
- 4 鼻咽腔閉鎖機能の評価としてのブローイング検査には、コップの中の水をストローで吹く( 10 )、ラッパや笛などを吹く( 11 )、がある。この時に、( 12 )を鼻息鏡で判定する。
- 5 脳性麻痺の出生前のリスク要因として、36週未満の( 13 )、出生時の体重が2,500g未満の( 14 )、子宮内感染などがある。( 14 )児のうち1,500g未満を( 15 )、1,000g未満を( 16 )という。
- 6 吃音では、発話にみられる中核症状の他に、瞬きや手足の動き等の( 17 )症状などの二次症状を伴うことがある。二次症状は( 18 )行動と( 19 )行動に大別される。( 18 )行動とは、あらかじめ吃音の発症を避けようとする行動であり、( 19 )行動とは、吃音が発症した直後に何とか吃音から抜け出そうとして行う学習された行動のことである。

- 7 小児難聴の原因にウイルス感染がある。胎内感染で難聴をきたすのは主にサイトメガロウイルス、( 20 ) などがある。出生後の感染で後天性難聴をきたすのは、ムンプスウイルス、( 21 ) などがある。サイトメガロウイルスによる難聴には、( 22 ) は pass し、後年発症する(遅発性)例が含まれる。ムンプスウイルス感染による難聴は、( 23 ) が多い。
- 8 難聴には、外耳から中耳までの障害による( 24 )、内耳以降の障害による感音難聴がある。感音難聴である老人性難聴は、( 25 ) 以外に難聴の原因がなく、発症ならびに進行が緩徐で、両側対称性の( 26 ) 型感音難聴である。純音聴力と比較すると( 27 ) が低下しているのが特徴である。
- 9 左右の聴力に大きな差がある場合、聞こえの悪い耳の聴力検査をする際に、対側の聞こえのよい耳で検査音を聞いてしまう可能性があるが、この現象を( 28 ) という。これを防止するため、対側耳に雑音を聞かせることを( 29 ) という。通常、気導聴力検査では、対側耳には検査音は約( 30 ) dB 減衰して伝わるため、これ以上の聴力左右差がある場合には( 29 ) が必要になる。
- 10 失語症は、( 31 ) 損傷によって生じる後天的な言語機能の障害である。原則として、( 32 ) ・( 33 ) ・書く・読むという言語の4側面がすべて障害される。発話面の症状では、( 34 ) 性は失語症の発話特徴を表す重要な観念であり、発症前と変わらない発話の長さ・量が保てていない場合を非( 34 ) な発話という。また、( 35 ) 障害とは、意図したことばを必要に応じて喚起できないことをいう。
- 11 運動障害性構音障害は、いくつかのタイプに分けられる。下位運動ニューロンの損傷で生じるのは、( 36 ) 構音障害、両側性上位運動ニューロン損傷で生じるのは( 37 ) 構音障害、小脳あるいは小脳路損傷で生じるのは( 38 ) 構音障害である。
- 12 遂行機能は、( 39 ) 葉機能の一つで、目的をもった一連の活動(目的の設定→行為の計画→計画の実行→効果的な行動)を成し遂げるために必要なすべての機能である。遂行機能には、( 40 )、( 41 ) (認知機能の柔軟性)、ステレオタイプの抑制、流暢性などが含まれる。

- 1 3 頸部聴診法では、聴診器を用いて嚙下音や嚙下前後の（ 4 2 ）音を評価する。聴診部位は輪状軟骨直下（ 4 3 ）外側が適している。
- 1 4 定型発達1歳ごろの摂食機能は、口腔機能は（ 4 4 ）、自食機能は（ 4 5 ）、水分摂取機能は（ 4 6 ）が可能となっている。
- 1 5 新版構音検査では、「がっこう（学校）」は〔（ 4 7 ）〕、「ちいさい（小さい）」は〔（ 4 8 ）〕、「じてんしゃ（自転車）」は〔（ 4 9 ）〕と、音声記号で表記する。
- 1 6 （ 5 0 ）とは拡大・代替コミュニケーションのことで、言語を含むすべての利用可能な手段を使ってコミュニケーション能力を改善するアプローチである。その手段には、（ 5 1 ）、（ 5 2 ）などがある。

2

次の語句を説明しなさい。

- 1 L-C スケール
- 2 学習障害の定義
- 3 粘膜下口蓋裂
- 4 吃音の中核症状
- 5 聴覚情報処理障害 (APD)
- 6 視覚性失認

